

徳島県総合計画審議会 会議録

I 日 時 平成28年11月29日(金) 14:30~16:00

II 会 場 県庁10階 大会議室

III 出席者

【部会委員】40名中 28名出席

近藤光男会長、金貞均副会長、中央子副会長、伊藤晴夫委員、大森千夏委員、沖田美代子委員、唐崎千尋委員、川眞田彩委員、日下正幸委員、近藤洋祐委員、齒朶山加代委員、清水康代委員、住友武秀委員、高橋啓子委員、近森由記子委員、樋泉聡子委員、内藤佐和子委員、中村太一委員、分木秀樹委員、松崎美穂子委員、森田正博委員、森本和代委員、山上敦子委員、山本紘一委員、吉尾さだえ委員、米澤和美委員、綿谷春代委員、渡邊真弓委員

【総合計画審議会委員以外の委員】

県政運営評価戦略会議 石田和之会長

【県】

知事、政策創造部長、各部局副部長 ほか

IV 議 題

- 1 会長・副会長等の選任等について
- 2 県政運営評価戦略会議からの提言について
- 3 「新未来『創造』とくしま行動計画」の見直しの進め方等について
- 4 その他

《配付資料》

資料1 徳島県総合計画審議会設置条例

資料2 徳島県総合計画審議会部会設置規定

資料3 「新未来『創造』とくしま行動計画」の改善見直しについて

参考 県政運営評価戦略会議からの提言書

V 会議録

- 1 会長・副会長等の選任等について

委員の互選により、近藤光男委員を会長に、中央子委員委員及び金貞均委員をそれぞれ副会長に選任した。

会長が、新未来創造部会及び若者クリエイイト部会の委員について、改選前と同じ委員を継続して指名するとともに、新未来創造部会の部会長として金貞均委員を指名した。

- 2 県政運営評価戦略会議からの提言について

(県政運営評価戦略会議 石田和之会長から近藤光男会長へ提言書を手交)

- 3 「新未来『創造』とくしま行動計画」の改善見直しの進め方等について

資料3に基づき、事務局から説明。その後、意見交換が行われた。

<意見交換>

(唐崎委員)

2020年東京オリンピックを迎えますが、その時に向けて徳島からの文化発信、今、日本が色々な面で注目されてる中で、インバウンドを含めて、また、徳島の人が誇りを持てるような文化のあり方というものを、1から考え直していく時期だと、ちょうど良い機会だと思います。4大モチーフを含めて、県内各地の農村舞台がたくさん残っていますので、他の県には類を見ない、良い意味で本当にレガシーだと思うので、そこに食とか人で

あったり、そこにあった仕事・歴史というのを含めて物語を作っていくながら1つ発信していくことは、とても良い徳島ならではの文化になっていくのではないかと思います。その辺りを私たちの方もまた一緒に御協力させていただきたいと思っておりますし、また県や国とも協調しながら何か一緒に進めていければなと思っております。地方創生であり、この徳島宣言とか提言にある行動計画の全ての面にわたっての文化の下支え、いろんな面からの支えになると思いますので、そういうお手伝いができればと思います。

(綿谷委員)

基本目標2の重点戦略5「6次産業化・とくしまブランド海外展開の推進」、それから重点戦略4の「もうかる農林水産業の飛躍」というところを、行動のほうにも例を挙げて書いておりますので、どんどんと課題の項目以上のことをやっていただききたいと思えます。具体的に言いますと、今新聞にも載っていますが、吉野川の河口の方ではすじ青のりが収穫し始めております。これもやっとな国内の方でぼちぼちと都会の方で広がっているようですが、実は何年前かに韓国でありましたラムサールCOP10というところに参加させてもらいました。その時のNPOのブースの中で、私は展示とプラスすじ青のりを持っていきました。そしたら韓国とかで取れるのりに比較して、その香りの良さと味の良さにつられて、高校生から大人からそれを目当てに集まってくださりまして、私たちが言いたいことも見ていただきました。すじ青のりに関わらず、お米とかブランドの肉などもどんどん外国にも向けて徳島のブランドは世界一だと持っていけるように、進んでいけたらいいなと思えます。第2点は、基本目標の環境のところですけども、環境リーダーの育成とか学校教育等が書かれております。そこも到達目標数値がありますけれども、それ以上に1年毎に目標する課題の達成を上げていただいて、ぜひ次世代の子供たちにすばらしい自然を残して行ってほしいと思えます。

(米澤委員)

1つは前々から不思議なのが、徳島はなぜ英語表記が少ないか。阿波おどり会館は県ではございませんけれども、アナウンスの時に阿波おどりをどうして英語で言っていたけけないのかなと。これは多分一斉に取り組みれば出来るんじゃないかなと思うので。先ほどオリンピックのお話も出ましたが、それに向けて、できたら英語を、それから韓国語・中国語ですか、そこまでいかななくてもせめて英語だけでもというのが望むところです。それが1点目です。

それともう1つ、私の仕事の範囲でテレワークということなんですけれど、これも私たち企業さん向けに発信していかななくてはいけないんですが、大企業はどんどん導入されている。ただ徳島モデルというのを作らなければ徳島の企業には浸透していかないと思えますので、徳島モデルをまず在宅勤務に関しては作っていくというのと、それともう1つ。テレワークという意味においては徳島は先進県です。これは他県の皆様、東京からお客様が来ても話をすると神山に驚いてました。徳島としてあるのはデュアルワークという形で無理しないで移住ではなくて、徳島に住みつつ都会でも仕事するという2つの拠点を持つような働き方ということを進めていく形の方が、徳島モデルに近いんじゃないかなと。これは国交省の方もおそらく神山のえんがわオフィスであるとか、そこをモデルにしたよう

な提言もされているようですので、そこをぜひ徳島で先進的に取り組んでいただければな
と思っております。

(日下委員)

カウンセリングをしております、引きこもりの方々の長期化が徳島県だけでなく全
国的に課題となっております。それと若者の県内就職促進、その両方が上手く噛み合っ
ていけば大変すばらしいことになると思うんですが、なかなか難しい課題とか問題とかがあ
ると思います。引き続き推進していったほしいと思います。

さらに、私が1番札所の霊山寺それから2番札所の極楽寺の間に住居があるものではな
ら、世界遺産登録への挑戦ということで大変県も市も一緒になって取り組んでくださっ
ますし、私自身も地元板東を世界の板東として発展していくように頑張っている次第です
ので、引き続きよろしくお願ひしたいと思ひます。

(齒朶山委員)

特に保育に関わって本当に新しい制度、私たちが子供を育てながら働いてる時にはな
かなか無かった制度を今、例えば病児・病後児保育そういうものもお願いしてきた経緯があ
るんですけども、ようやく今実現しかかったかなと大変嬉しく思ひます。女性活躍推進
法が制定されておりますが、なかなか女性が働くだけの条件が今整っていないというこ
とで、私も同じ女性として心配をするんですが、その中で最も心配なのは待機児童が多い
ということ、いわゆる厚労省基準が緩和されてしまいました。例えば、0歳児に保育士
が何人付くのかっていうようなことから始まって、待機児童に対応していくために基準が
下げられた、そうするとそれは誰が一番しわ寄せを受けるのかといえば保育労働者だけ
ではなくて、子供が一番しわ寄せを受けていくと思うんです。県としてどうなのかというこ
とは少し問題があるかも分かりませんが、もっと保育士の労働条件を改善していくような
世論を高めていかななくてはならないのではないかなと思ひます。私、阿南市ですけど、保
育士の賃金の引き上げがされましたが、残念ながら保育士がおられません。いないのは
なくて、まだ上げて本当に働こうとする条件には足りていないということ、そこがやっ
ぱり大きな問題だと思うんです。それはなぜ保育労働者の賃金が安いのかということは、
保育というのが託児だと多くの人達が考えておられる、介護労働者もそうですけれど、女
が見るもんだっていうようなところがあって、低賃金に抑えられてるのではないかな。そう
いう意味では本当に未来の子供たちを育てていく上では、潜在している保育士さん達を有
効に使っていきけるような、県として、何か取組が出来ないものかというのを1つは思ひ
ます。本当に今、全国もそうですけれど、県内の市町村で毎年毎年保育士さんが足りない
と。私も現場の方達とお話をする機会がありますので、現場の保育士さんも含め担当の課
も含め探しますが、なかなか働いてくださる方がいない。これでは本当に子供たちが豊
かに育っていきけるのだろうかとても心配をいたします。そういう意味で私もこれから何ら
かの御意見を申し上げていきたいなと思ひますが、もう1つは無認可の保育所も含めてこ
ども園というのが新しくなっています。それから企業の保育所もだんだんと出来つ
つあります。それはすごく良いことだと思うんですが、じゃあ保育内容がどうなのかとい
うことが実は本当に一番心配なんです。三つ子の魂百までって言ひますが、3歳までにど

のような子育てと環境と教育を受けるのか。そういう意味では保育は単なる託児ではなくって教育だっていう考え方を、もっともっと浸透させていかななくてはならないと思います。徳島県も一時期は、徳島県保育要領を作って、徳島県内の全域の保育所・幼稚園に、きちんと人権も考えるいろんなバランスの取れた子供たちを育てようというそういう動きが一時ありましたが、残念ながら今それがちょっと影を潜めてきています。でも本当に子供たちの未来を考えるなら、どんな子育てをみんながしていくのかっていうことはとても大切なことだと私は思っておりまして、この年になりましても就学前教育で一生懸命現場の方と頑張っています。本当に保育内容等をどう確保していくのか、私たちは今までの同和保育それから人権保育の中で、4つの指標6つの原則というものを挙げて、どんな子供を育てるかっていうことを目標を明らかにしながら取り組んでまいりましたけれど、県も含めて再度そのことを見直していただけたらと思いますので、どのようにこの中に盛り込んでいくかはまた改めて考えさせていただくとして、今日お集まりになられた委員の皆様にも真剣に考えていただけたらありがたいなと思います。そして先ほど、外国人向けの表記が少ないということをおっしゃられました。実は福岡だとか大阪というのは、在日外国人の方が多くですが、人権を考えるシステムがものすごい出来上がってます。そのことを通して、いち早く外国人に対する、それは英語だけではなくて中国語・韓国語で、そういう表記がいたる所にされてます。それは人権の延長線上だと思いますので、ぜひとも取り組んでいただけたらと思いますので、よろしく願いいたします。長くなって申し訳ありません。

(高橋委員)

基本目標6「「まなび・成長とくしま」の実現」という中で、世界で活躍する人材の育成というのがございます。現在政策的にもそれから県とかでも世界で活躍出来る人材の育成という中で、「トビタテ！留学JAPAN」という県と国とそれから企業の支援を頂いてやっております。幸いなことに本学でも今年8名が採用されまして、私学の在籍数パーセンテージからすると結構高い方で、我々も誇りに思っているところです。やはり地元というのも大事ですが海外でいろいろなことを経験するということは、これから社会で活躍するのに凄く重要なことだと思います。そういう中で、より一層いろいろな支援をしていただけたらと思っております。それからそういうことが経験になって、徳島県により良い人材が育っていくということも思っております。

それから先ほど東京オリンピックのことも出ましたけれども、国体なんかでは開催県になると成績は良いんだけどそれ以外だとなかなか良い成績は残せないというようなこともあります。やはり芸術やスポーツにももう少し力を入れて欲しいと思います。オリンピックとか世界で活躍出来る人材、スポーツ選手というのは掘り起こせばもっといるんじゃないかと思ったりもしますので、そういう部分にも力を入れて、強化選手なんかの育成も必要ではないかと思っています。

それからもう1つは文化施設なんですけれども、現在徳島市で文化施設が無いということで問題になっています。徳島市だけの問題でなく徳島県として色々な文化施設として、いろんな方が来て講演をしたり、舞台を経験できる施設が必要です。どの県でも大きいもの、中ぐらいのもの、小さい施設というのはあるかと思うんです。だからそういうことを

若い人達が経験する、それに協力するということでは重要な施設だと思しますので、市の問題というだけでなく県も協力して立派なものにしていただければと、新聞を見る度に思っておりますので、ぜひ実現していただければと思います。よろしく願いいたします。

(大森委員)

消費者の観点から御意見を述べさせていただきたいと思えます。去年の大きな出来事としましては、消費者庁の移転の話が出てきたということかと思えます。今は「消費者行政新未来創造オフィス（仮称）」が設置されると聞いておりまして、来年度以降の計画でも「消費者行政新未来創造オフィス（仮称）」が設置されるということで、消費者関連についてもより積極的に計画をしていただきたいと思います。消費者教育についても力を入れていただいていると思うんですけど、今後は成年年齢の引き下げで20歳から18歳に引き下げるといふかなり本格的な議論がされていると聞いておりまして、それに伴ってより積極的に18歳から20歳までの消費者被害も増えると考えています。いきなり下がるとは思っていないんですけども、それまでの長期間の消費者教育というのが、下がった場合の消費者被害の減少にかなり効果的だと思いますので、それについても今後も引き続き力を入れていただきたいと思います。後は悪質な業者に対する行政処分についてもより一層強化をして、悪質な業者があれば適切に対処をしていただくようお願いをしたいと思います。以上です。

(中副会長)

乳児園、こども園のお話が出たんですけども、私小松島なので乳児園の方にボランティアで入ってます。あそこに行くと本当に保育士さんが足りません。5人に1人付くとか4人に1人とかで付くんです。夜も昼も。それでボランティアを受け入れてくださったら良いんですが、なかなか門戸が固いんですよ。やっぱり人件の問題があるもんね。

また、若い親が子供を殺してしまうような事件もあります。あんな見たらね、どうしてここに連れてきてくれんのかって私いつも思うんです。今の若いお父さんお母さんの教育が大事じゃないでしょうか。いつも思います。

(金副会長)

子供のことを考える保育施策とかその辺のご発言がありましたけれども、その一方で高齢者が住みやすい町も非常に大事なと思います。それは介護やら福祉関係の充実につながるものであったり、住みやすい町ということで、特に過疎地域の場合は移動の問題もありますし、生活の質に関わる問題もたくさん抱えていると思います。今日本では、日本版CCRCとあって、大都市から地方へ高齢者の移住が進められている。しかし、ただ移住するだけではなく、移住先にそれなりの基盤を作っておかないといけません。徳島はどうでしょうか。高齢者が移住して住みやすい町ではないでしょうか。お天気も非常に穏やかなどころでもありますし、三好市でそういう取組がされているという話を聞いておりますけれども、地方の小さな町でどんどん人口が減って住む人が少なくなりますと、社会基盤施設を整えること自体が非常に難しくなっていくので、人をいかに増やしていくのが

これからの課題になります。そういった意味で高齢者の移住先として徳島県の在り方を真剣に考えていくべきかと思えます。もう1つは防災教育です。これは学校における防災教育はもちろんのことですけれども、地域毎に住んでいる人々の意識を高めるための防災教育が必要です。先日ある町のシニアクラブの方々に、地震災害に関連する出前講座をしました。みなさんの意識は結構高いと思えますが、実際何が出来るか、家の中での整え方として家具の転倒防止とか自分の命を守るために今すぐ出来ることとか、または住まいそのものの耐震性を高めるためにどうすべきかという実際のことに関する知識はまだ不十分かなと思えました。大変心配はしておりますながらも何をどうすべきか、ということに関する具体的な知識の部分は足りないと感じましたので、地域の隅々まで行き渡らせるような防災教育の展開というものが非常に必要かなと。これは防災というか減災ですよ。自然災害の発生は私たち人間に止めることは出来ませんが、被害を最小限に留めることは出来ます。それは日頃の教育、減災の意識から来るものだと思いますので、県政の中に、防災教育をしっかり位置付けるべきかと思えます。

(中村委員)

保育の話が先ほどから何人かの委員の方から出ておりますけれども、私徳島市内で3園、小松島市内で1園運営をさせてもらっております。小松島市のほうは認定こども園で、徳島市内の3園のうち2園については来年度4月より認定こども園にする方向で動いております。この保育園と幼稚園そして認定こども園ということですが、非常に行政市町村の考え方もバラつきが徳島県内を見てもあって、国も厚労省文科省のこともあるんですけども、なかなか統一された良い方向性が最近では発せられてなく、市町村も困っておるのが現状でないかなと思っております。もちろん保育サービスそして市民・県民への利用しやすいことがモットーであったと思えますけれども、机上の論理で指導を受けるのも文書で載っとるままそのまま受ける程度です、本当にサービスの向上効率性っていうのが行われているのかなっていうのは疑問を持っているところでございまして、県としても、市町村と共に力を合わせてその辺をもう少しお考えいただけたらありがたいかなと思っております。また保育士の人材の話がございましたが、県のほうも潜在保育士への復活ということで色々手を打っていただいております、保育園に一時的に研修に来たりして実際に復活をしていただいた保育士もおります、ある程度の成果は納めていただいております。また給与賃金のお話もございましたけれども、最近では全国的な平均の統計を見ても公立の方が給料が高くて民間の方が安いというデータが出ておるんですが、我々民間としてもそれに負けないような給与を出しておるんですが、なかなか公立も人が集まらないのかいつの間にか求人を見たら500円くらい1日上げてたりですね、公立と追いかけてこになっておる状況もございまして。またそういう給与だけでなく職環境の面もあるかと思いますが、そういう面も正直に申し上げて労働環境が悪いと言われている園もございまして、そういうところをチェック指導をしていただきたいと思えます。

それと男性の保育士の話が先ほど少し出ましたが、うちは4園とも男性保育士はおります。しかしながら多分一番最初に男性保育士が誕生したのは7年くらい前だったかと思えますが、その時に一番ネックになったのはロッカーにしても女性だけしかない、トイレ

レにても男性用の分は子供たちの分しかないとかですね、旧来の古い園については、新しいやつとかは最初から設備を整えておるんですが、そういうことで多分採用出来ないっていう。我々もその時何百万かの改築をしました。そういうことも今後考えていって、介護なんかは男女比率がそんなに遜色ないくらいまできておりますので、保育士の方についても男性でもおかしくない時代でございますので、そういう意味での県の方策も今後お考えいただけたらありがたいかなと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思います。

(住友委員)

いつも同じことなんです、とにかく内外の交流人口の増加ということ、それが全てに通じるという確信を持っておるわけなんです、そういう中で色んなジャンルといいますかツールがあるんですけども、いつも思いますのがこの徳島が大河ドラマになったことがない。これは端的に歴史上の色んな出来事が無いということと言われるんですけども、そういう中でありながら今徳島は正に飯泉知事さんの元で新しい歴史が作られていこうとしております。この新しい歴史を持ってですね、今もちょうど消費者庁の誘致であるとか色んなことに大変な努力をされておると思うんですが、これを今からドキュメントに撮っておいてですね、大河ドラマの代わりにいつか放映が出来ないかと考えておるんですが、それが1点でございます。それとですね、やはりこのちょうど2020年にオリンピック色んな練習会場の問題も最近言われておりますが、美波の方でも非常に優れた会場もございますし、大変良い成績が出ておりますので、そのようなことでもう一段とまた、同じようなドキュメント制作の中に入れていただいて、よろしくお願ひしたいと思います。

(近森委員)

徳島県青年国際交流機構の近森と申します。私達の団体は、内閣府が主催しております青年国際交流事業の参加青年のボランティアで構成されており、今年度も徳島県から2名の若い方が合格され、うち1名は既に事業に参加されて帰国しております。私このお2人の方と、他の方もそうなんですけども、SNSでつながっておりますと、若い方の活躍を目の当たりにして感じる事が多くございます。知事のお話を聞いてますと災害被害に対するフットワークの軽さとか、そういうので若い方達の御意見を反映・実現出来るような県じゃないかなと思いました。実際でも私もSNSでつながっているからこそ彼らの活躍を知るところがあり、なかなか県政に若い方の御意見って反映されにくいのでないかなと思っております。先ほど会長の方からもお話がありました若者クリエイト部会の私自身も委員でして、最近とてもこの若者クリエイト部会の、自分自身なんですけども役割について自問自答するところがございます。なかなか若い方のご意見、県政に反映しにくいかなと思うんですが、そういう時にも私達のような委員のメンバーを介してでも県政に反映できるようなそんな施策があればいいかなと思っております。長期ビジョン考えますと、2060年っていいますと長いようで40年後なんですけど、私は本当に高齢者になっている時代であります。今若い方の御意見を本当に県政に反映して、自分自身も県政に反映していただくということが自分自身のためにもなるということを改めてこの場において感じるところでございました。以上でございます。

(松崎委員)

子育て支援ネットワークの松崎と申します。3点程ちょっとお話をさせていただきます。

今、アスティとくしまの方に「徳島県子育て総合支援センターみらい」っていうのが男女共同参画センターにあって、私達も支援者の講座とか徳島ではなかなか聞けない講師の方とかいろいろ各市町村のネットワークをつないでいただいたりとか、子育て支援の備品も貸していただいたりということがあり、大変ありがたく感謝しています。南部・西部に関しても、どうしても南部の方で子育て支援をしたいっていう、今私達も徳島県シルバー人材センター連合会と県の方の事業で、55歳以上のシニア世代の方の子育て支援者の養成講座とかさせていただいてるんですけど、皆さんが立ち上がりたいと思われるんですけど、やはりアスティとくしままで相談しに来なくてはいけないというところで二の足を踏まれている状況をお聞きします。以前は、私達が活動していた頃は行政の子育て支援が遅れてたというか、働くお母さんの支援だったものですから、在宅でおられる方の子育て支援が随分遅れていたということで、私達が25年ほど前に子育てサークルを立ち上げ、さらに国がエンゼルプラン等で子育て支援の箱モノと言ったら失礼なんですけど、箱モノ以外にも色んな支援をしてくださって支援が進んで、子育てサークルがどんどんどんどん潰れて、今度は地域子育て支援拠点という箱モノが随分出来てきています。そして子育てサークルがどんどん潰れたんですけども、今度は箱モノがいっぱい出来た中でさらにそこにもっとキメ細やかな子育て支援を求めてお母さん達、または先ほども申しましたシニア世代の方が立ち上がろうとされてるところを、キメ細やかに支援するには、出来たら南部・西部こども女性相談センターってありますよね、そのところに「みらい」のような出向先というか、「みらい」のような相談が身近に出来る場所または人でもいいんですけど、そういうところをそろそろ作っていただけたらありがたいなと。というのは、やはり南海トラフ地震が近づいておりますから、女性とか子供とか外国人の方、発達障がい者の方、重度障がい者の方、アレルギー、アトピー、乳幼児、赤ちゃん、妊婦さんその辺りが中央ばだけではなくて、すぐさま動けるような南部・西部にもそういう子育て支援の相談するセンターと拠点を、人でもいいし場所でも。例えば1か月に1回でも「みらい」から誰かが行っていただくじゃないけども、そういう拠点を作っていただけたらありがたいなと思っております。私達は「とくしま子育て防災ネットワーク」を立ち上げておまして、毎月1回勉強会を開いて防災センターとも連携しながらしてるんですけど、これだけ地震が近づいてくると、かなり不安に思うお母さん達も赤ちゃん達を命を守っていかなくてはいけないので、中央だけではないというところで南部・西部こども女性相談センターの活用もお願いしたいなと思っております。

それから、先ほどから認定こども園のお話が出てるんですが、一気に認定こども園ができて行って、本当に保育士さんが足らんのにどうしてこんなに認定こども園を作るのか不思議ではないのか。実は私の娘も保育士とか免許を持ってるんですけど、娘の友達とか保育士は給料が安いから行かないって全然違う仕事に行くんです。学校からでももう一度保育士をさんにと、潜在保育士さんの発掘でお手紙はしょっちゅう来ます、大学からでも。それでもやはり皆さん行かれませんか。それで認定こども園進むにあたって、ちょっと不安な想いもありますので、その辺り保育士さんの質の向上と賃金の問題も早急に徳島県で取り組んでいただけたらありがたいなと思っております。以上です。

(近藤会長)

ありがとうございました。それではこれで意見交換を終わりたいと思います。

予定をしておりました議事は全部終了ということになります。後は事務局の方から連絡がありますので、それをお願いしたいと思います。

事務局説明

・会議録の公表については、事務局で取りまとめた上、発言された委員に確認いただいてから、発言者名も入れて、公開したい。

・次回の開催は、2月上旬に開催を予定しており、近藤会長と相談の上、連絡させていただきたい。